

古地図のなかの海域世界

～「海東諸国総図」と「混一疆理歴代国都之図」～

語り：高橋公明 教授
(国際開発研究科)

地図とは、いうまでもなく、ある時代、ある地域、ある人々の地理的世界観を表現したテキストである。

そのようにして出来上がった地図は、繰り返し転写され、後世に伝わっていく。その過程で、その地図のある部分が切り取られて他の地図と合成されたり、あるいは逆に、他の地図がその地図と組み合わせられたりして、新たな地図が生成されていく。現存する多くの古地図は、そのような過程を経て伝わったものである。

ここでは、1471年にはじめて木版印刷された朝鮮の『海東諸国紀』所収の「海東諸国総図」と、1470年から80年代にかけて作成された「混一疆理歴代国都之図」(龍谷大学図書館所蔵)をとりあげ、それぞれがどのような地図を合成して成立し、それがどのような朝鮮の政治エリートの世界観を反映したのかを検討し、かつ、どのように海域世界が描かれているのか考えてみたい。

2010年6月22日(火) 午後6時～

名古屋大学中央図書館5階多目的室

参加無料
申込不要
会員以外の方も
歓迎します

名古屋大学附属図書館友の会

TEL 052-789-3666

FAX 052-789-3693

E-Mail tomo@nul.nagoya-u.ac.jp

URL <http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/tomo/>

(後援)

名古屋大学附属図書館,
同研究開発室

